



9/11(木)は雷雨のため調査は中止です。
本日9/12、調査区の保護シートにたまった雨水を排水し調査再開です。

9/6に一つの調査区で確認された住居址の床のような地層面は、隣接する他の調査区でも見つかりました。
写真は南側で見つかった住居跡の壁と考えられるローム層の段差。
北側でも同様な段差が見つっています。
土層断面の観察では、やはり竪穴住居跡のようです。住居跡の位置・深さは地下レーダーの探査結果のとおりでした。



当初設定した調査区(1号トレンチ)東側に新たに調査区(2号・3号トレンチ)を設けました。

これは見つかった住居跡の範囲を確認するためと、地下レーダーで反応のあったもう一つの住居跡と考えられる遺構を確認するためです。



1号トレンチで見つかった住居跡の形や時代を確認するため、一部住居跡の中の調査を行います。

住居跡を埋めている土を上層から順番に、出てくる土器などの遺物を残しながら掘り下げます。